

緑の風 FAX版

NO. 64

2015年5月14日

JR東労組
本部情宣部

たしろかおる参議院議員

国土交通委員会で**再び**質問を行う！

鉄道の安全に向け、過度な効率化・外注化に警鐘を鳴らし、
技術・技能継承の必要性和原因究明の大切さを訴える！

5月14日、参議院国土交通委員会でたしろ参議院議員が再び質問に立ちました。

たしろ議員は、東洋ゴムが国の安全基準に満たない免震装置を製造・販売していたことに対して、東洋ゴムの経営者に原因と対策、さらには経営責任について質問を行いました。

その後、JR東日本の電化柱倒壊や新幹線架線切断など連続して発生している事象に対して、安全レベルが低下しているのではないかと、現場の状況を報告し、太田国土交通大臣に答弁を求めました。

<主なやりとり>

たしろ:連続して発生している事象は、本体と協力会社の連携や本体と業者の技術力のバランスが取れていないなど、安全よりも利益優先の過度の効率化・外注化が原因ではないか。

太田大臣:過度の効率化や外注化は問題である。業者任せではいけない。本体に技術力がなければ、作業をチェックできない。

たしろ:鉄道の安全確保には技術継承が必要と言われるが、技術継承と技能継承は違う。技術継承は、マニュアルや資料で残せるが、技能は、先輩からの指導や長年の経験によって身につくもの。現場に行けないなどの声もあるが現場で学ぶことが必要だ。

太田大臣:技術が継承されていくことは大事なこと。現場に行くことによって現場力、技能が蓄積され、感覚や技能が身につく。

たしろ:責任追及ではなく、ミスなどを隠さずなんでも言い合える職場風土が人命を預かる鉄道会社には必要だが、現場は工期が決められ、工期を気にするあまり、危険を感じても報告しづらい。

鉄道局長:報告するルールを明確にすることと、積極的に報告した人を評価することが重要である。非懲罰的な制度を確立するように鉄道会社には指導していく。

太田大臣:リーダーが現場感覚を持ち現場を知り「俺のところに積極的に報告してくれ」という姿勢や危機感を持たないと職場風土はできない。

職場の声・実態を国政に届けるたしろ議員を応援しよう！